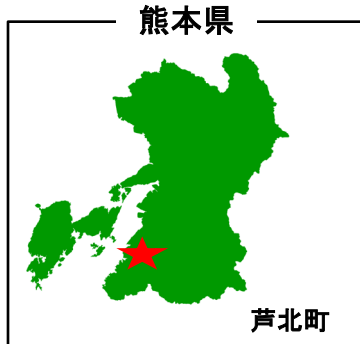


地域の特産品を活用した給食で魅力の再発見！

事業実施主体：芦北町（熊本県）

○ 芦北町においては、新型コロナウイルス感染症の影響で、休校や黙食により、通常行ってきた食育活動を十分に実施できなかったため、地場産物を活用した給食の際に学んでいた生産から消費までの食に関する知識を得る機会が減少している。また、特産品である「あしきた牛」や「デコポン」の価格が高騰しており、学校給食であまり使用できない状況が続いている。

○ 町の特産物を活用した試食メニューを給食で提供するとともに、栄養教諭による食育指導及び映像による食育活動も併せて行うことで、児童生徒の特産物の生育から消費に至るまでの食に関する正しい知識の習得を目指す取組を実施した。



【取組の内容】

○ 学校給食における地場産物等活用の促進

芦北町の特産品である「あしきた牛」や「デコポン」を活用した試食メニューを学校給食で提供。

各学校において、「あしきた牛」や「デコポン」などの生育から消費（給食提供）までの流れなど、栄養教諭による食育指導を実施。

また、生産者の写真等を活用した映像資料を作成し、給食時間などに電子黒板等での放映による食育活動を実施。



（地場産物を活用した給食メニューの試食）

（栄養士による地場産農産物の説明）



（毎月配布している給食献立カレンダーに特産物活用の情報も掲載）

【取組の成果】

○ 学校給食における地場産物等活用の促進

町の特産物を活用した試食メニューを給食で提供するとともに、栄養教諭による食育指導及び映像による食育活動を併せて行う機会を増やしたことで、児童生徒の地場産品への知識の習得ができた。

【事業の目標】

① 学校給食における地場産物の活用回数

事業実施前 40回/年
→事業実施後 86回/年

② 産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選ぶ人の割合

事業実施前 74.8%
→事業実施後 89.1%

